

入間市の概況及び公共交通の現状

説明資料

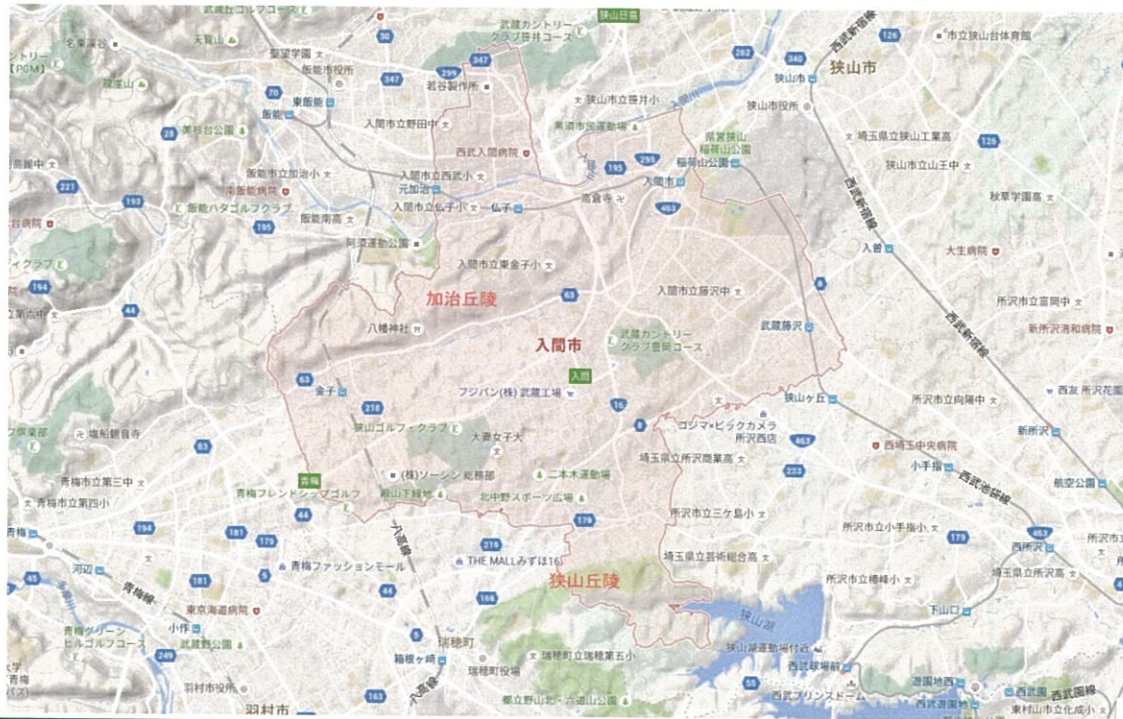


1. 入間市の概況



入間市の概況【地形】

入間市北西側（金子、西武地域）に加治丘陵、南側（宮寺・二本木地区）に狭山丘陵があり、幾分起伏がある地形となっている。その他の地域は、概ね平坦な地形となっている。



出典: Google Map

2



入間市の概況【人口動態】

入間市の総人口は、2010（平成22年）の約15万人をピークに将来減少すると推計されており、特に生産年齢人口（15～64歳）の減少が著しい。

また、高齢人口（65歳以上）は、2020年（平成32年）まで急激に増加し、その後も微増する傾向にある。それに伴い、高齢化率も、上昇傾向にあり、2010年（平成22年）段階では20%となっている。2040年（平成52年）時点では、高齢化率は37%まで増加すると推計されている。

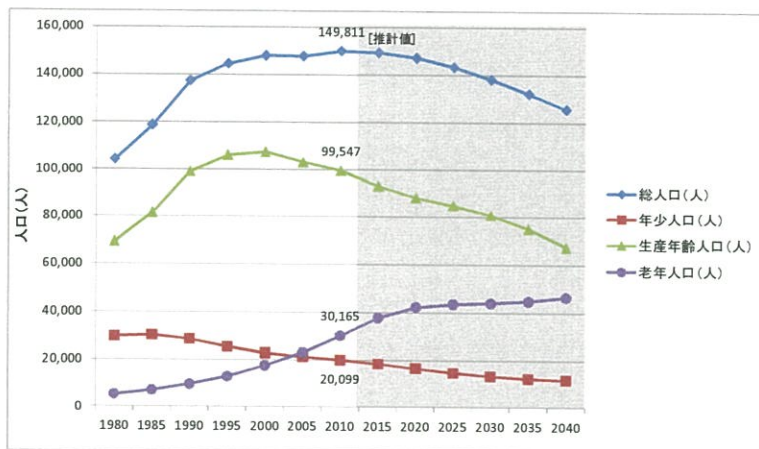


図 人口推移

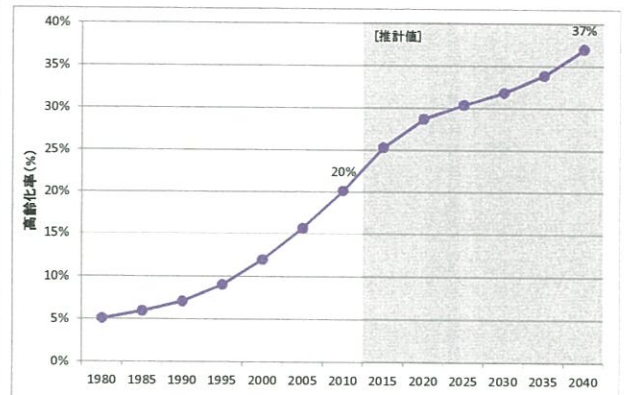


図 高齢化率推移

出典: 地域経済分析システム(まち・ひと・しごと創生本部, <https://resas.go.jp/#/13/131011>)

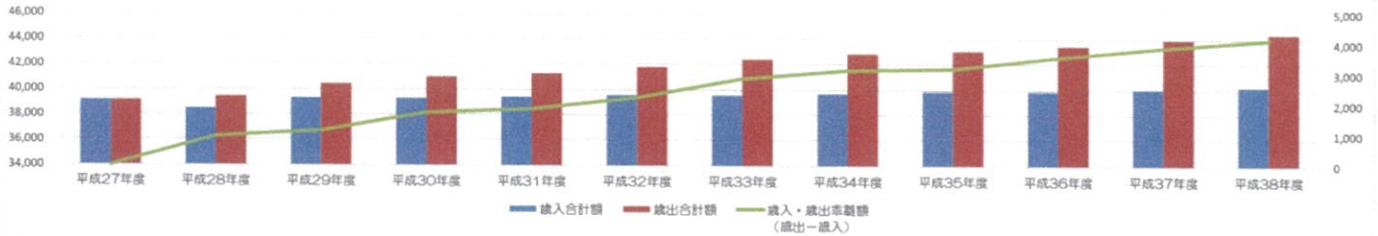
3



入間市の概況【財政見通し】

平成28年度以降、歳出が歳入を上回る見通しとなっている。さらにその乖離は、年々大きくなる見通しとなっており、財政状況は悪化の一途をたどることが分かる。

歳入・歳出乖離額の推移



※平成26年度時点の見通しを示すものであり、事業見直しや行政改革効果、未確定の制度変更等の影響といった変動要素は見込まれていない。

出典: 入間市総合計画前期基本計画素案



入間市の概況【施設立地状況】

入間市における公共施設等の配置は、豊岡・藤沢地域を中心に各地域で分散される形での配置となっている。

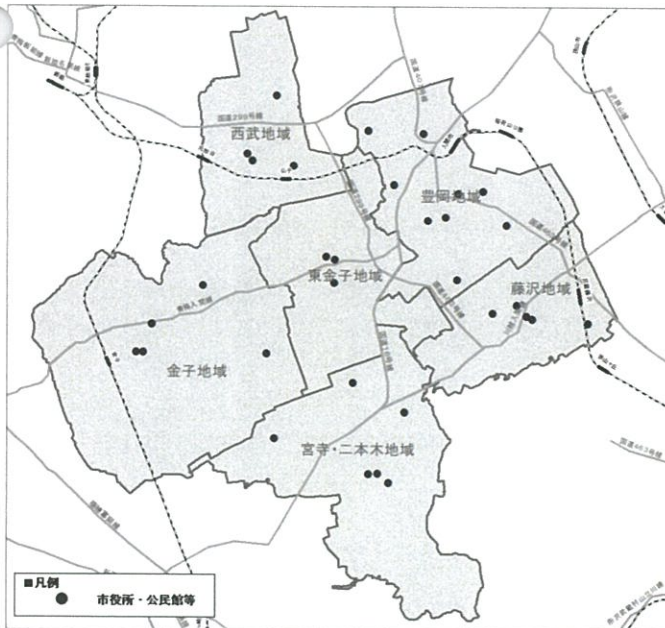


図 市役所・公民館等

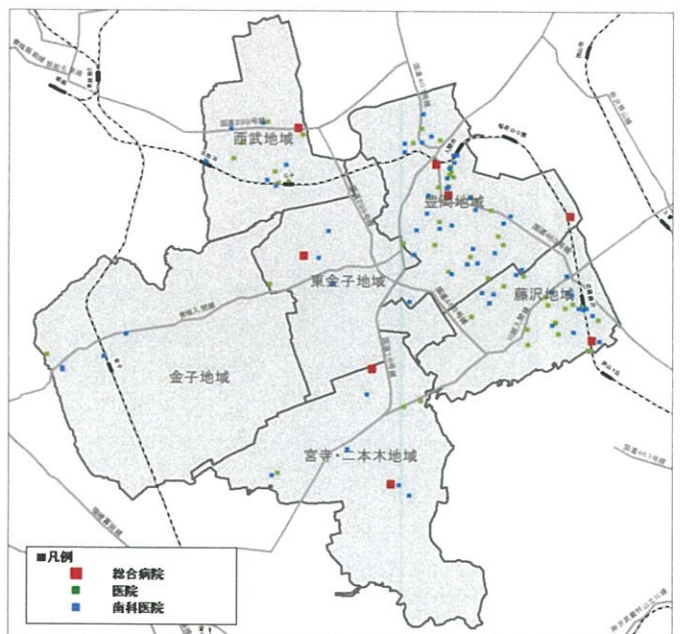


図 医療施設

出典: 入間市HP、地図データ等



入間市の概況【施設立地状況】

入間市における公共施設等の配置は、**豊岡・藤沢地域**を中心に各地域で分散される形での配置となっている。

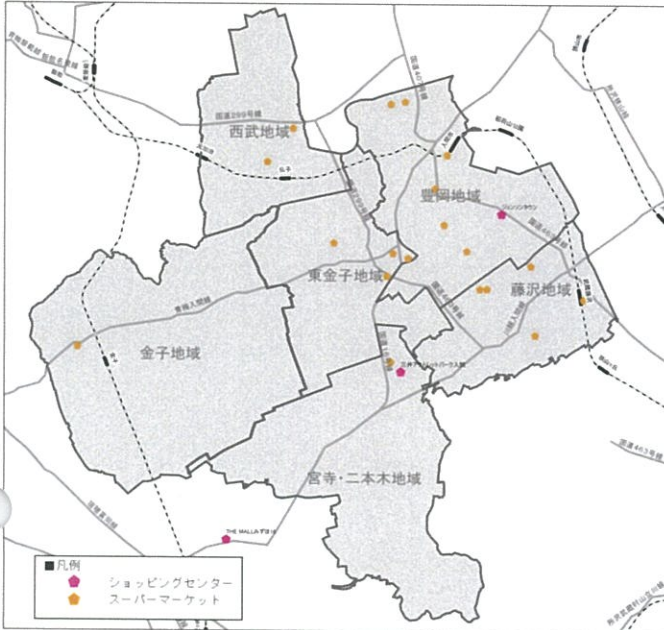


図 商業施設等

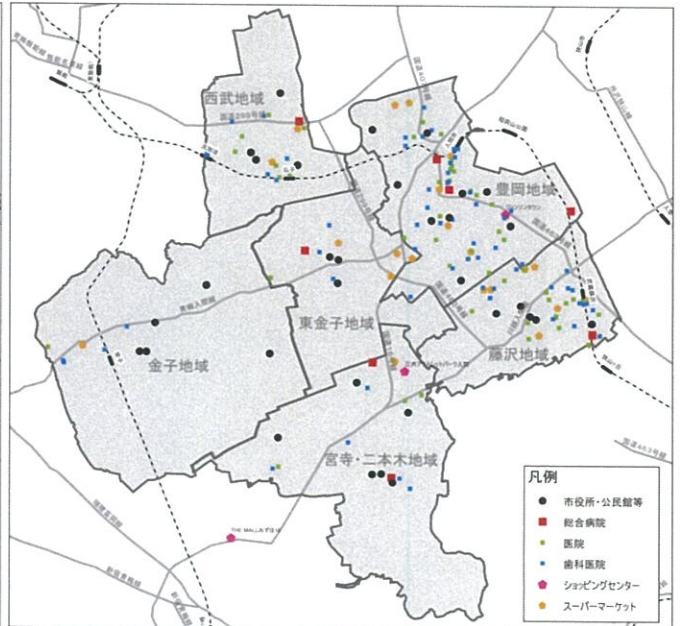


図 全施設

出典：入間市HP、地図データ等



入間市の概況【上位計画等】

第5次総合振興計画においても、「公共交通機関の充実」が挙げられている。平成30年度以降の次期総合計画においても、盛り込まれる予定。（現在パブリックコメント募集中）

第5次入間市総合振興計画 後期基本計画

まちづくりの方向

◆将来都市像◆
香り豊かな緑の文化都市

- 1 豊かな心ふれあいまち
- 2 幸せをわかちあいまち
- 3 住みよく美しいまち
- 4 活気に満ちたまち
- 5 安全で安心して暮らせるまち
- 6 緑につつまれたまち

まちづくりの基本理念

◆施策1 公共交通機関の充実

事業① 鉄道輸送力の増強

市民の交通利便性を向上させるため、あらゆる機会を通じてJR八高線の複線化や、入間市駅発着電車の運行など、輸送力の増強を鉄道事業者に対して要望します。

事業② 民間バス路線の整備促進

民間バス路線については、地域ニーズに応じた増便、路線の増設や延長をバス事業者に対して可能な限り要請し、市民生活の利便性の向上に努めます。また、バス交通の安全性や定時性を確保するため、運行環境の整備支援を行うとともに、ノンステップバスの導入によるバリアフリー化を推進します。

事業③ 市内循環バス事業の実施

市内循環バスの運行形態の見直しに伴う検証結果を踏まえて、市民がより公共施設を利用しやすくなるため、また、高齢者や障害者等の活動範囲を広げるために、事業の再構築を含めた施策や事業のあり方についての研究を実施します。

〈評価項目〉

評価項目名	目標値設定の考え方	現状値	後期目標値	目標達成値
ノンステップバス導入率	高齢者や障害者の利便性を向上させるために、導入率を高めます。	45.5%	70.0%	100.0%
市内循環バス「ていーろーど」利用者数	公共交通機関の利用促進を図るために、利用者を増やします。	95,959人	101,200人	105,800人
バス利用の便・路線網に対する市民満足度（市民意識調査）	利便性が高まったと感じる市民の満足度を高めることで、公共交通網の整備の達成度を測ります。	-0.273	-0.1	+1.0

出典：入間市第5次総合振興計画 後期基本計画



入間市の公共交通網（現況）

入間市内の鉄道は、JR八高線（金子駅）、西武池袋線（武蔵藤沢、入間市、仏子、元加治駅）が運行している。バス交通は、路線バス（西武バス）及びコミュニティバス「ていーろーど」（入間市）が運行している。

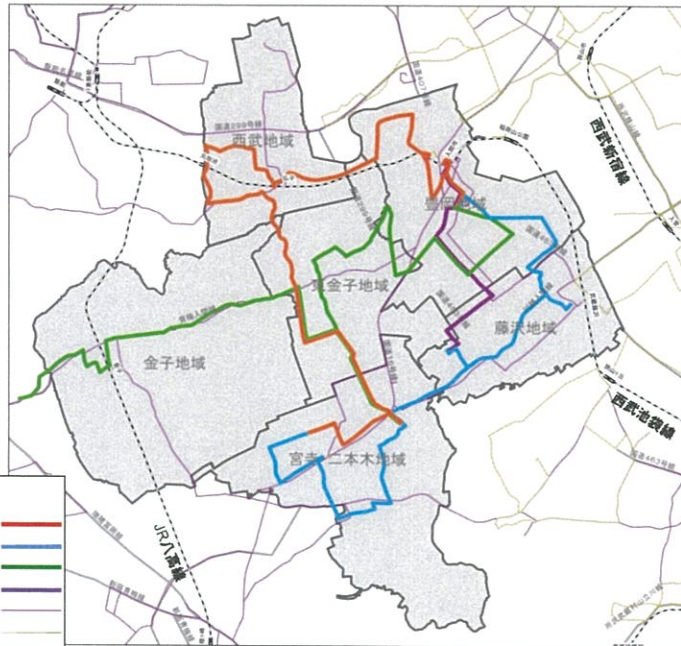
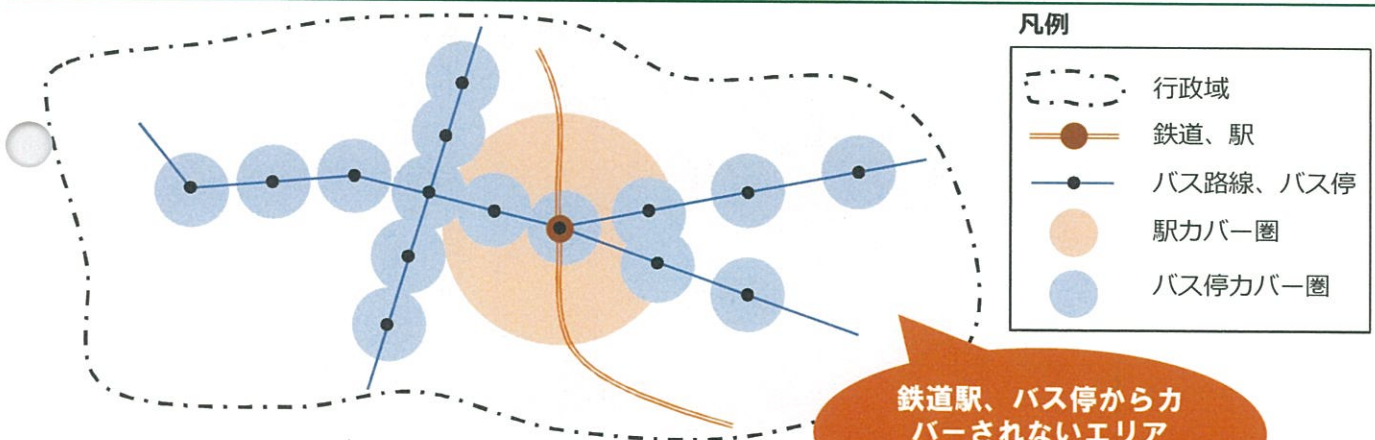


図 公共交通網（現況）



交通空白地域の考え方



- 凡例
- 行政域
 - 鉄道、駅
 - バス路線、バス停
 - 駅カバー圏
 - バス停カバー圏

鉄道駅、バス停からカバーされないエリア
⇒交通空白地域

カバー圏域埼玉県内市町の例

市町村名	鉄道から	バス停から
上尾市	1km	300m
北本市	1km	300m
熊谷市	1km	300m
寄居町	1km	300m
ときがわ町	—	500m

参考指標

・90%の人が抵抗なく歩くことができる距離⇒300m
バスサービスハンドブック（土木学会）

・歩行者が抵抗を感じる距離の事例

環境条件	抵抗を感じる距離	備考	
天候良好時	都市部	230m	自家用車利用者を対象 50%以上が抵抗を感じる距離
	区部	329m	
	市部	334m	
	郡部	488m	
平均	平均	300m	

道路経済研究センター



入間市の交通空白地域（ていーろーど除外）

入間市内には、交通空白地域が、広く点在している状況にある。

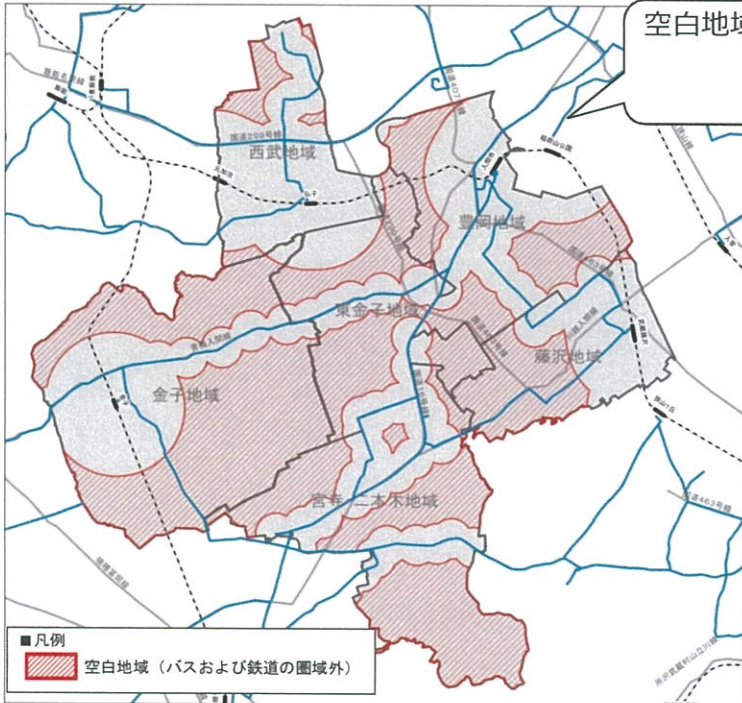


図 交通空白地域（ていーろーどを除外）

10



入間市の交通空白地域（ていーろーど除外）

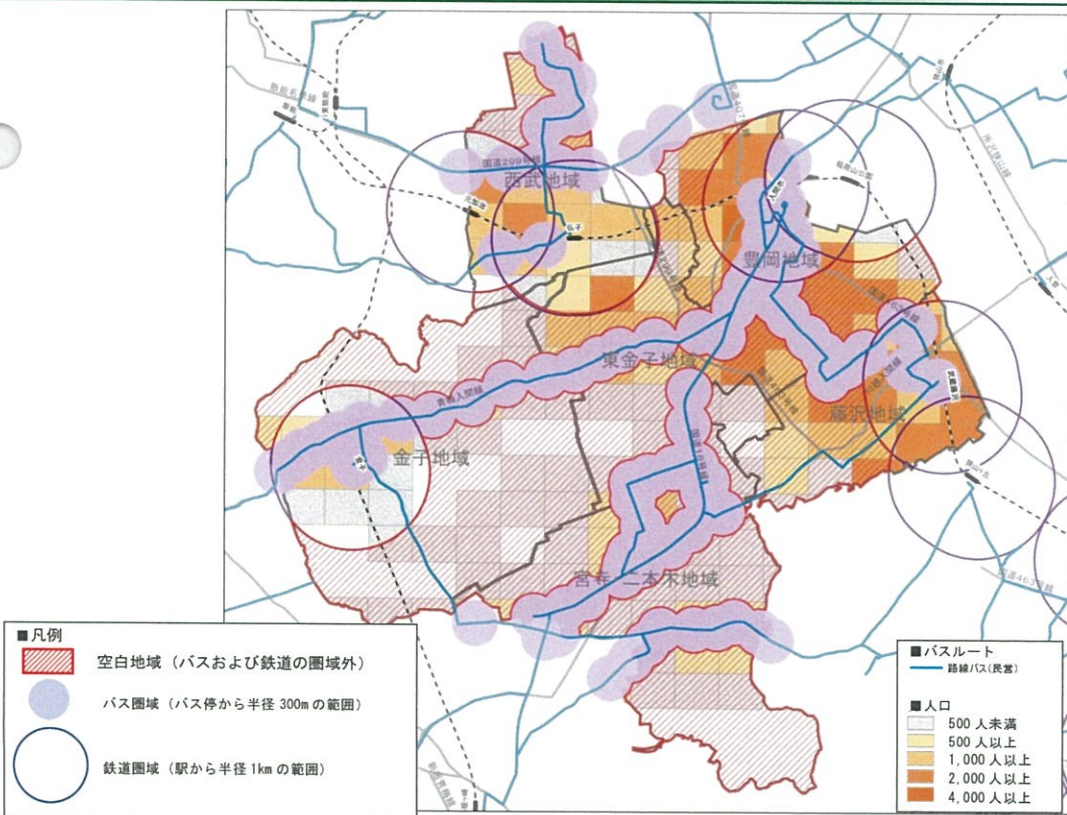


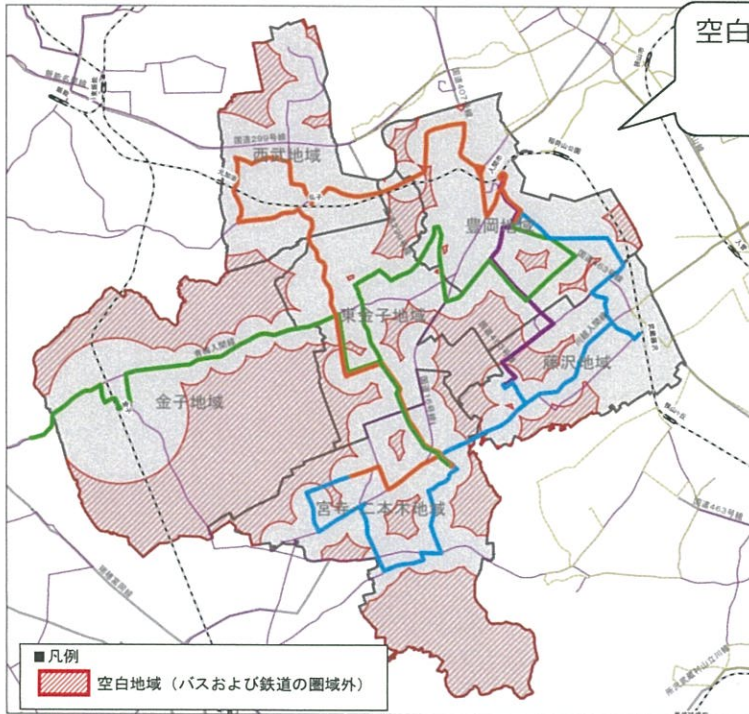
図 交通空白地域（ていーろーどを除外）

11



入間市の交通空白地域（ていーろーど考慮）

入間市内には、交通空白地域が、広く点在している状況にある。



空白地域：全ての地域に存在しているが、特に金子、宮寺・二本木地域に広く存在

図 交通空白地域（ていーろーどを考慮）



入間市の交通空白地域（ていーろーど考慮）

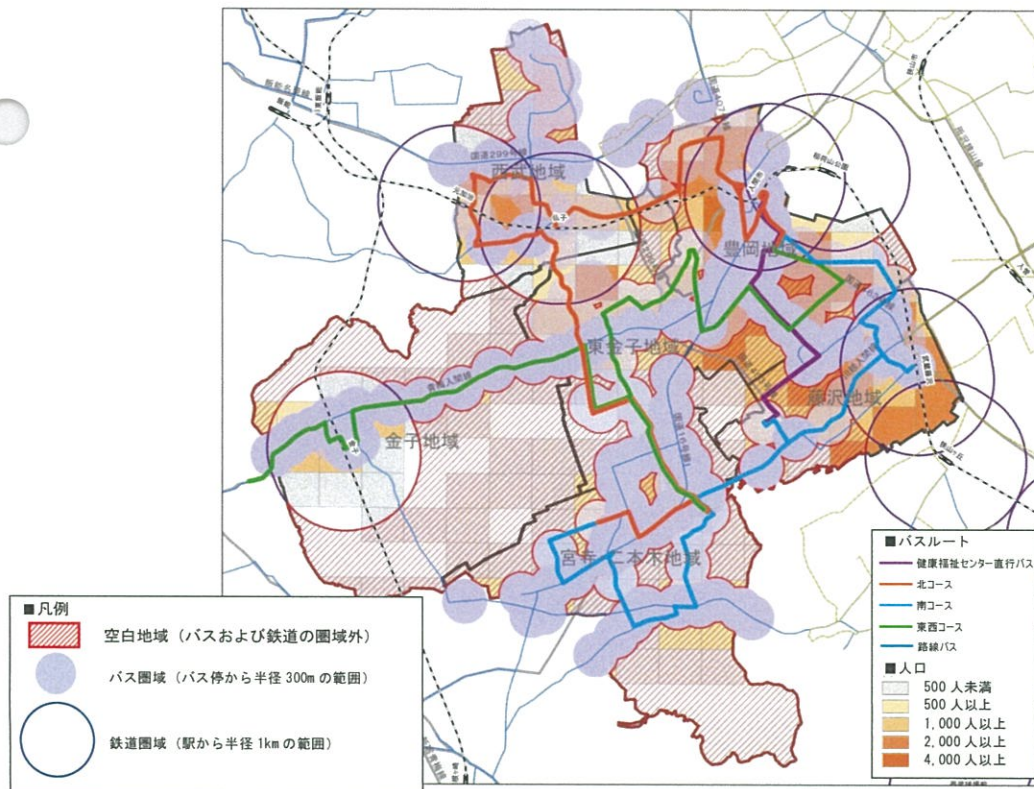


図9 交通空白地域（ていーろーどを考慮）